

2 県内図書館への貢献

・ 定量評価（5=100％以上 4=90～100％ 3=80～90％ 2=70～80％ 1=70％未満）

・ 総合評価（A＝成果を上げている（4.5以上）、B＝順調に進んでいる（3.5以上4.5未満）、C＝概ね順調に進んでいる（2.5以上3.5未満）、D＝順調に進んでいるとはいえない（1.5以上2.5未満）、E＝事業の見直しが必要（1.5未満））

	項目名	取組概要	指標・目標値	目標達成のための主な取組（実施状況）	実績	達成率・評価	自己評価	総合評価	協議会意見
県内図書館等が実施するサービスへの支援	県内図書館等への協力貸出の充実	・ 県民へのPR ・ 市町村等のニーズ調査と貸出体制の見直し ・ 小規模図書館等へのセット図書の見直し及び貸出 ・ 展示用コレクションの貸出	協力貸出冊数【16,000冊】	従来の制度での協力貸出に加え、昨年10月に開始した市町村立図書館等へのテーマ別図書セット貸出サービスを本格化させた。市町村図書館からの購入図書のリクエストを常時受け付けており、これによりニーズを把握している。	14,362冊	達成率90% 評価（4） 90～100％	新型コロナウイルス感染症による利用者の行動変容に加え、冬季の大雪等が図書館に出かけるという行動を鈍らせた結果と分析している。目標値を下回っているものの、今後も県内市町村との情報交換によりニーズを把握し、利用につながる蔵書の充実を図っていく。また、次年度はSNS等を活用して制度の活用を積極的に訴え、利用促進を図りたいと考えている。	B	通常のILL（相互貸借）だけでなく「テーマ別図書セット」の貸出の本格化などの取り組みは非常に評価できる。県立図書館の専門的な選書眼で選んだ図書を市町村にセット貸することは市町村立図書館の選書や蔵書構成の一助にもなると考える。達成率は90%だが市町村立図書館もコロナ禍で利用者が減っているところが多いため、仕方ない部分もあると考える。 各図書館との連携を密に行うことにより、今後の改善が出来るものと思う。
	県内図書館等への訪問の充実	・ 市町村図書館等への訪問相談 ・ 高等学校への訪問相談 ・ 相談・打合せなど、様々な機会を捉えて訪問の実施	訪問等回数（研修以外）【20回以上】	以下の訪問事業を実施し、各館の相談対応や情報交換等を行った。 ①5月26日 訪問相談（県立羽茂高校図書館） ②6月3日 新館視察（長岡市立栃尾図書館） ③6月28日 訪問相談（県埋蔵文化財調査事業団） ④6月29日 阿賀野市学校図書館協議会図書館主任研修会（阿賀野市立神山小学校） ⑤6月30日 新潟県立・市立・大学図書館相互協力担当者会議（新潟市立中央図書館） ⑥7月8日 訪問相談（県立長岡高校図書館） ⑦7月22日 訪問相談（柏崎市立図書館） ⑧7月29日 訪問相談（十日町高等学校図書館） ⑨8月31日 訪問相談（県立柏崎高校図書館） ⑩9月21日 電子図書館サービス実施状況ヒアリング（三条市教育委員会） ⑪9月21日 電子図書館サービス導入検討状況ヒアリング（田上町教育委員会） ⑫9月26日 訪問セミナー（弥彦村公民館図書室）「地域資料の収集と活用」 ⑬10月6日 訪問セミナー（小千谷市立図書館）「地域資料の収集と活用」 ⑭11月18日 訪問相談（県高校図書館協議会柏崎地区連絡会） ⑮11月18日 新潟県視覚障害者情報センター事業推進懇談会（県視覚障害者情報センター） ⑯11月30日 訪問相談（出雲崎町立出雲崎図書館） ⑰1月11日 第2回新潟県立・市立・大学図書館相互協力担当者会議（新潟市立中央図書館） ⑱2月9日 障害者サービス担当者情報交換会（県視覚障害者情報センター） ⑲2月10日 訪問相談（（田上町地域学習センター） ⑳3月1日 訪問相談（長岡市立中央図書館） ㉑3月13日 訪問相談（弥彦村公民館図書室）	21回	達成率105% 評価（5） 100％以上	年度当初の目標を達成した。次年度は電子図書館サービスの検討状況等も踏まえながら、引き続き相談や情報交換等により、状況に応じたきめ細かな支援を行っていきたい。	A	今回は目標を達成したが、先方からの依頼によって訪問回数が変わってしまうので、例えば、希望がなくても県立図書館側から定期的に県内の図書館を順番に訪問することも重要だと考える。（県立図書館職員と市町村立図書館職員との交流にもつながる。） 会議の際にも話が合ったように、現場を見た上でのアドバイスなど実際に訪問することが有効な場合を除き、あえて訪問する必要がない場合も多いのではないかと思う。 県立高等学校図書館への訪問相談は意義深いことであるので、今後、いっそう増加することを望む。 大切な活動だが、外部の人間からはわかりにくい活動と思われるので、各館からの相談内容や具体的な指導など、簡条書きで表記していただければと思う。
	県立高等学校図書館への支援	・ 高等学校への訪問相談 ・ 協力貸出の推進 ・ 連携事業の実施	高等学校協力貸出冊数【120冊】	県立学校への図書貸出サービスに関するチラシ(利用カード作成の案内を含む)、サービス利用マニュアルを作成し、5月末に県立高等学校等へ配布をした。	442冊	達成率368% 評価（5） 100％以上	学校図書館司書との情報交換の機会が増え、学校現場での資料のニーズや活用方法、意見などを詳しく聞くことができるようになった。今後も、より多くの学校と気軽に意見が言える関係性を築き、現場の意見をサービス改善や選書に役立てていきたい。	A	身近な市町村立図書館との連携も多い中で、健闘している項目である。学校司書との連携や授業での活用など今年度の実績を引き続き来年度につなげていただきたい。 高校生向けに、学校配付のタブレットによる調べ学習や読書指導等における充実した活用につながる取組があるとよいと感じる。

	項目名	取組概要	指標・目標値	目標達成のための主な取組（実施状況）	実績	達成率・評価	自己評価	総合評価	協議会意見
県内図書館等職員の人材育成	各種研修会等の実施	・階層別研修等の実施 ・オンライン研修 ・訪問研修の実施 ・訪問研修メニューの改善 ・参考となる図書の紹介・貸出	研修会等参加人数 （訪問研修以外） 【200人】	オンライン形式を取り入れ、より多くの職員が参加しやすくなるよう取り組んだ。 ＜実績＞ ①5月25日 視覚障害者サービス研修基礎編（オンライン）33人 ②6月16～17日 新潟県公共図書館新任職員研修会（1日目・会場11人、オンライン15人 2日目・会場10人、オンライン15人）計51人 ③7月1日 新潟県公共図書館児童部門研究集会（集合）39人 ④9月27日 新潟県公共図書館中堅職員研修（オンライン）50人 ⑤10月4日 新潟県公共図書館総合部門研究集会（オンライン）40人 ⑥11月25日 視覚障害者サービス研修基礎編（オンライン）13人 ⑦3月8日 新潟県公共図書館専門職員研修会（オンライン）69人	295人	達成率148% 評価（5） 100%以上	年度当初の目標を達成した。 視覚障害者サービス研修基礎編をオンラインで実施し、より多くの参加が得られた。 遠隔地の図書館を中心にオンライン研修の要望があるため、次年度も開催方法を工夫しながら充実した内容の研修を実施し、県内図書館のレベルアップを図っていく。	A	目標を達成して県内の図書館職員のレベルアップに貢献できている。オンライン・対面どちらもメリット・デメリットがあるので、研修の趣旨や参加者を勘案して、参加者も多く内容も充実し、職員同士の交流もできるような開催方法で引き続き研修を開催していただきたい。 県立図書館が持つ大きな役割としての、市町村立図書館に対する支援があり、ZOOMを活用した研修等は多くの方からの利用が可能であり非常に効果的であり、対面と併用しての実施を望む。 読書バリアフリー法実施に伴う障害者サービスの充実のためには、各図書館職員の障害者への理解が重要であり、基礎編と実践編の研修を進めていく必要があり、視覚障害者情報センターとしても最大限の協力を行いたい。 A評価を維持できるよう積極的な研修への呼びかけや、研修内容の充実にも努めてほしい。
			市町村訪問研修回数 【10回以上】	以下の訪問研修を実施し、県内図書館の人材育成に取り組んだ。 ＜実績＞ ①6月24日 視覚障害者サービス研修・実践編（上越市立高田図書館） ②6月30日 視覚障害者サービス研修・実践編（柏崎市立図書館） ③7月6日 視覚障害者サービス研修・実践編（佐渡市立両津図書館） ④7月7日 レファレンス研修・初級編（新発田市立中央図書館） ⑤7月11日 レファレンス研修・初級編（新潟医療福祉大学図書館） ⑥9月12日 レファレンス研修・初級編（弥彦村公民館図書室） ⑦9月26日 レファレンス研修・郷土レファレンス編（十日町図書館） ⑧10月13日 視覚障害者サービス研修・実践編（新発田市立中央図書館） ⑨11月2日 資料修理や保存の基礎（新潟大学附属中央図書館） ⑩11月18日 資料修理や保存の基礎（聖籠町立図書館） ⑪11月28日 レファレンス研修・初級編（燕市立図書館） ⑫1月13日 資料修理や保存の基礎（村上市立中央図書館） ⑬2月1日 レファレンス研修・初級編（新潟市立中央図書館） ⑭2月27日 レファレンス研修・初級編（弥彦村公民館図書室） ⑮3月6日 資料修理や保存の基礎（長岡市立中央図書館）	15回	達成率150% 評価（5） 100%以上	年度当初の目標を達成した。 図書館サービスの要であるレファレンス研修のニーズが依然として高いため、次年度も引き続き研修内容の向上を図りつつ、目標の達成を目指していきたい。	A	15回と目標よりも大幅に多い回数となり、県内の図書館職員のレベルアップに貢献できている。相手先からの依頼によって数値が変化するので、例えば訪問研修をしていない図書館へ直接アピールをするなどの方策も今後は検討していただきたい。 A評価を維持できるよう積極的な研修への呼びかけや、研修内容の充実にも努めてほしい。（再掲） 大切な活動だが、外部の人間からはわかりにくい活動と思われるので、各館からの相談内容や具体的な指導など、簡条書きで表記していただければと思う。（再掲）
			訪問研修メニュー数 【5】	視覚障害者情報センターとの連携による障害者サービス研修を再編成し、基礎編（オンライン）と実践編の2段階で実施、研修メニューの改善と充実を図った。 ・視覚障害者サービス研修・実践編 ・レファレンス研修（初級編） ・レファレンス研修（郷土編） ・資料の修理や保存の基礎	4	達成率80% 評価（3） 80～90%	訪問セミナーの経験値蓄積により内容を向上させ、研修として実施できるよう取り組む予定であったが、前半はコロナウイルス感染症の影響もあり訪問の実績が伸びず、メニュー数の増加には繋がらなかった。 次年度は訪問セミナーの内容をブラッシュアップさせ、研修メニューに加えることで目標の達成を目指していきたい。	C	目標5で今回は4だったので、今後、コンテンツ数の拡大を期待したい。（いたずらに数を増やすのではなく、しっかり内容を吟味して充実したメニューとしていただきたい）。県立図書館の職員が講師を務めることから、県立図書館職員のスキルアップにもつながるため、多くの県立図書館職員が講師ができるようになっていただきたい。 A評価を維持できるよう積極的な研修への呼びかけや、研修内容の充実にも努めてほしい。（再掲） 大切な活動だが、外部の人間からはわかりにくい活動と思われるので、各館からの相談内容や具体的な指導など、簡条書きで表記していただければと思う。（再掲）